

事例部門 最優秀賞（県知事賞）

晴耕雨読な暮らしの住まい

所在地 安曇野市
構造 木造2階建
延べ面積 118.44 m²
応募者 藤松 幹雄

作品のコンセプト

子供たちが社会人となった御夫婦が住まう。
敷地は駅より徒歩10分程で総合病院やスーパーなど程近い。自立して日常生活を送るには便利な地域。
環境条件など敷地特性を探りながら家族の集まる居間を中心据えた。
光庭を設けシンボルツリーを囲むよう居住スペースを配置し、家に居ながらも信州の心地良い風や降り注ぐ光を感じられる住まいとした。



・高さをおさえ深い軒と梓川の川砂を入れた土壁風塗壁は、安曇野に馴染む
・半屋外のウッドデッキや庭は、ご近所との交流の場
・前庭の一角に作った畑から収穫した野菜が夕食にあたり四季折々を楽しむ



・光庭やウッドデッキからの柔らかい自然光に包まれるリビング
・県産材を多用した住まい

ダイニング



バリアフリーを考慮した広めの洗面脱衣室



玄関ホールから見る光庭
・ヒメシャラが出迎える
・四季の移り変わりを楽しむ
・2階にロフト的な部屋を設置

信州での「住まい方」 応募者の思い

日本人の平均寿命が伸び、「退職後の暮らし」に十分な時間が出来た。自立しながらも元気よく過ごすのが21世紀の住宅建築のテーマではないか。
社会と関わりながらも、のんびり暮らす自由時間。子供や孫が時

おり訪れる、拠り所となる賑わいのある住空間。休耕田を借りるなど、自然と関わり地域とも繋がる。
長野県は学ぶ場も多く「晴耕雨読な暮らし」の環境がそこにある。

審査員講評

「信州の住まい」とは。
ステレオタイプは、広大な自然に囲まれ、都会の喧騒から離れた、自適な住まいであろう。
最優秀作品は、駅から徒歩10分、総合病院、スーパーもほど近く新興住宅地に建つ。
居間に中心に光庭が設けられ、外部と内部をつなぐウッドデッキ、

その向こうには家庭菜園があり、それらを望むキッチン。
言葉にするとたわいもないが、きめ細やかさが随所にみられる。
信州の心地よさ、日常生活、便利さ、大きく構えないで、いいところまで実現している、身近に感じられるプロトタイプとなる信州らしい住まいを選んだ、というのが審査委員一同の感想である。

(五十田 博)